

[PRESS RELEASE]

今井 俊介 Shunsuke Imai "Red, Green, Blue, Yellow, and White"

会場：HAGIWARA PROJECTS
〒135-0006 東京都江東区常盤 1-13-6-1F
T/F: +81 (0)3 6300 5881 E: info@hagiwaraprojects.com
www.hagiwaraprojects.com

会期：2021年7月17日(土) - 8月22日(日)
※8月12日(木) - 15日(日)は夏期休廊
開廊：木～土 12:00-19:00, 日 11:00-18:00 (月・火・水・祝日 休廊)



"untitled" 2021, acrylic on canvas, 40 x 32 cm

この度HAGIWARA PROJECTSでは7月17日(土)より、今井俊介の個展"Red, Green, Blue, Yellow, and White"を開催いたします。弊ギャラリーでは4年ぶりの新作展となります。

今井は、パソコン上で直線のストライプを配置して紙に印刷し、その紙を歪ませてできた曲線の部分をキャンバスに写し描くという方法で作品を制作しています。色彩豊かな縞々の曲線が波打つ画面は、多くの人を魅了しています。

今回発表する作品は、これまでと少し違う視点から制作されました。制作のプロセスは同じですが、まず元のパターンに、ストライプやドットを使わず、規則的に配置された単色の正三角形のみを用いました。そしてその三角形の色には、赤、緑、青、黄という限定した色しか使っていません。

「形」と「色」で絵画が成立するとはどういうことか。今井の探求が、今回の作品へと繋がっています。絵を描くときに使う最も基本的な色、そして規則的に配置した三角形、という一見ミニマルな要素から作られた絵画に、イリュージョンは起こるのか。断片的なパーツとなった形は、どうすれば魅力的なイメージになり得るのか。また今回は、展示会場の壁が木材であるため、作品の白地も「色面の形」として見えることも想定されます。さらに、色やポジションについて参照項となる絵画史を、現代の作家がその文脈をどう更新していくことが可能であるか。

そうした様々な考察を重ね生まれた作品は、単純な形態がちりばめられた軽やかで豊かな表現になり、これまでの作品とは違った存在感を出しています。

混沌とする現代の社会状況において、形と色、鑑賞体験という当たり前のことに改めて立ち返ることへの作家の意欲的な試みを感じられる展覧会です。

今井俊介 (いまい しゅんすけ)

1978年 福井県生まれ、東京都在住。2004年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。主な展覧会に、「range finder」Kunstverein Grafschaft Bentheim (2019, Neuenhaus ドイツ)、「MOT コレクション ただいま / はじめまして」東京都現代美術館 (2019, 東京)、「Reborn - 未来を發明 コレクション x 現代作家」福井県立美術館 (2019, 福井)、「絵画の現在」府中市美術館 (2018, 東京)、「オープンシアター KAAT 突然ミュージアム 2016」KAAT 神奈川芸術劇場 (2016, 神奈川)、「となりの人びと - 現代美術 in 春日井」春日井文化フォーラム (2016, 愛知)、「VOCA展 2015 現代美術の展望 - 新しい平面の作家たち」上野の森美術館 (2015, 東京)、「絵画の在りか」東京オペラシティアートギャラリー (2014, 東京)、「第8回 shiseido art egg 今井俊介 "range finder"」資生堂ギャラリー (2014, 東京)、「surface / volume」HAGIWARA PROJECTS (2013, 東京)、「surface / volume」LOOP HOLE (2012, 東京)、「SSS - expanded painting」MISAKO & ROSEN (2010, 東京) など。